

# 令和3年度前期学校評価結果から

## 職員自己評価から

### 1 教育目標について

学校教育目標については、概ね適切という結果であった。「自ら学びよく考える子ども」「思いやりがあり助け合う子ども」「健康な体でがんばりぬく子ども」「よく働く子ども」の4つの柱について、昨年度同様に適切との評価である。

一方、清掃についてはやや評価が低い。現児童数では、広い学校施設を日々清掃することが大変ではあるが、教職員が新体制になり一学期間やってみて、無言清掃への取り組み等清掃への態度や方法について改めて共通確認したい。

### 2 教育課程・学習指導・特別活動・学校行事について

ほぼ昨年度同様の結果であり、概ね適切であるものの数値がやや低い項目がある。

1つ目は、日課表についてである。意見欄にも書かれているが月曜日の繰上日課に課題があること、また、集団下校時刻に間に合わないことが原因と思われる。集団下校時刻は、学校外への影響もあるので改善を考えたい。

2つ目は、主体的な学習態度の形成についてである。改善に向けて、校長の指示のもと、「やまなしスタンダード」に基づいた児童の主体的な学習を育むための授業改善を行っている。

3つ目は、学校行事の実施についてである。コロナウイルス流行の波が定期的にやってくる中で、実施を制限したり、方法を変えて実施したりすることによると思われる。今後も流行に左右されることとなるが、児童の安心・安全を優先したい。

### 3 生徒指導について

昨年度同様概ね適切であるとの結果である。校長の全体方針に基づき、全職員で共通理解をして指導を続けていることで、昨年度から不適応行動をとる児童が落ち着いてきている。どの教職員も同じ方針で指導することが大切なので、生徒指導委員会等で共通理解をしながら対応していきたい。

### 4 安全管理（防災・防犯など）について

昨年度よりも避難訓練や防犯教室は計画的に行われているが、6月の訓練のみ県内でのコロナウイルス流行により実施できなかった。地震発生時の基本訓練が確認のみとなり、実際の訓練ができなかったことにより数値がやや低い。

千葉県での悲惨な交通事故を受け、本校でも危険な通学路を把握し、市に報告したり、通学路変更を対象地区と相談して進めたりしている。

### 5 保健管理について

昨年度同様概ね良好との結果になっている。

新型コロナウイルス対策については、養護教諭を中心に、市内の感染状況に応じて我慢強く行っている。日々の体温チェックについて、記入カードを持ってくるのを忘れる児童が何人もいたので、保護者に徹底を呼び掛けてきた。

熱中症対策については、水分補給や防止の着用、暑さ指数計測による屋外での活動制限等日々行っている。

心身のケアについては、養護教諭が担当になってスクールカウンセラーを活用し、児童・保護者の悩みに対応している。

## 6 特別支援教育について

特別支援学級担任，交流学級担任，市単講師が情報交換を密に行うことで，支援学級在籍児童に寄り添った教育活動実現に向けて努力しているが，個別の支援を必要とする児童が多く在籍するため，市単講師を配置していただいているものの市単講師への負担も大きく，教務の応援が必要となることが多い。2学期以降，特別支援学級児童の成長に合わせた教職員の応援体制改善を行う必要がある。

## 7 組織運営について

組織運営・予算ともに良好と評価できる。今年度は，校内研究で一人1台タブレットの活用に向けて計画的に教職員全体で研修を行っている。児童が個別最適な学びを実現できるように，研究主任，情報教育主任が中心となって教職員もタブレットの活用研修を急ピッチで進めている。

## 8 保護者，地域住民との連携について

特に1年生保護者とコミュニケーションがとれなかった昨年度の反省から，今年度は，家庭訪問や4月の授業参観を実施することにより，昨年度よりは保護者との連携を図ることができている。学級担任は，できる限り学年だよりや連絡帳等で学校での児童の様子を保護者に伝える努力をしている。また，現状では，保護者や地域住民の来校制限があるため，ホームページの「学校のひろば」で，児童の日々の学習の様子を画像で紹介している。

P T A活動も，今年度はできる範囲で実施している。コロナ禍の中でも役員さんを中心に本校教育活動にご協力いただき，大変ありがたい。

## 9 施設・設備について

昨年度同様に良好と評価できる。安全点検等の結果から，素早い処置を行うことで児童の学習や活動に支障のないように対応していく。学校予算で対応できない修繕内容については，市教育委員会にすでに報告済みである。

宮城県での防球ネット支柱事故を受け，本校の関連施設・設備も総点検したところ，異状は見当たらなかった。

## 児童アンケートから

- ・全体的に肯定的な回答が多く、児童が日々よくがんばって学校生活を過ごしていること、学級担任が児童理解を深め、日々授業等の改善を行いながら教育活動を行っていることがうかがわれる。
- ・「本を読む」ことへの肯定的な回答がやや低く、昨年度より低下している。GIGA スクール実現への取り組みとして、朝読書の時間の一部をタブレット端末に慣れるための時間として活用したり、学習内容増加により授業時間を読書時間として保障できなくなったりしていることが影響しているかもしれない。2学期に向けて、学校でも児童が本に親しむための改善をしていきたい。
- ・学校で困ったことや嫌なことがあった時に、「そのことを誰かに話せたか」について否定的な児童が8人いる。また、「嫌なことを言われたり、からかわれたりする」に対して、昨年度は0だったが、今年度は10名の回答がある。一方、「遊びの時仲間外れにされる」は、0になった。学級担任を先頭に安心できる学級づくりを進め、児童の悩みに対応できるように日々気を付けているが、何でも相談できる雰囲気づくり・声かけと、人を傷つける行為の防止・指導になお一層努めたい。
- ・「自分からあいさつができたか」の問いに、肯定的回答90%、否定的回答10%となっていて、保護者アンケート結果（肯定79%、否定21%）と差がある。児童は、自分ではできていると思っているが、客観的にはできていない子がいるということになる。あいさつは、心の中とか小さな声では相手に伝わらず、相手の目を見て聞こえるように言うこと、仲良しの友達にだけ言うのではだめなことを学校でも指導すると同時に、各学級のあいさつ委員を中心に取り組んでいく。

## 保護者アンケートから

- ・昨年度肯定的回答が多かった「自分からあいさつできる子ども」「早寝早起き朝ごはん」「家庭学習の習慣化」が、肯定的意見の割合がやや低下している。昨年度は休校期間が長く、各家庭での指導の成果があったと考えられるが、今年度は元に戻った印象を受ける。一方、「文字や計算などが身についたか」については、昨年度低下した割合が今年度は戻っている。休校が長引いた昨年度に比べ、今年度は授業が平常通りできたことにより、昨年度よりも児童が学校での学習内容を習得できたと考えられる。
- ・あいさつについては、自由記述欄にも課題が書かれている。「あいさつができていないか」は、人により基準が違って判断が難しいが、校内ではあいさつができていても、地域であいさつができていない児童が一定数いることがわかる。満足できるあいさつは、口頭で指導してすぐできるようになるものではないので、学校と家庭、地域で連携を取り、あいさつへの取り組みをしていく必要がある。
- ・「読書」については、令和元年73%→令和2年68%→令和3年59%と、肯定回答の割合が低下してきている。コロナ対策により、図書館利用が制限されてきたことも影響していると考えられる。読書時間はむしろ確保できると思われるが、ゲームやインターネットにその時間が使われているのではないかと危惧する。小学校時代の読書は、言葉の獲得に大いに役立つ。人間は、思考したことを言葉で表しているのではなく、獲得した言葉によって思考している。つまり言葉を多く知ることによって生活上の物事に区別が付き、生活が豊かになる。学校でも家庭でも、児童の読書環境をさらに意識して整えたい。
- ・「宿題・家庭学習をみてあげたか」は、保護者が仕事で帰りが遅く、帰ったころには子どもがすでに学習を終えていたり、学童保育で宿題をやっていたりするために、保護者がみてあげられないという声もある。